

# 病害虫情報(第5号)8月予報

平成30年7月31日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ】
- II 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、平成30年7月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

生育:6月上旬植 並、6月中旬植 並～やや遅 (生産技術部:はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病(穂いもち)	やや少	△	(予・治) コラトップ粒剤5 [出穂30日前～5日前,2回] 3～4kg/10a (予・治) ブラシフロアブル [7日,2回] 1,000倍 等 ◆ ブラシフロアブルを飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。
紋枯病	並	○	(予・治) リンバー粒剤 [30日,2回] 3～4kg/10a (予・治) モンカット粒剤 [出穂30～10日前,14日,3回] 等 湛水散布 3～4kg/10a ◆ 防除適期は出穂期まで。
斑点米カメムシ類	やや多	○	キラップ粒剤 [14日,2回] カメムシ類、ウンカ類:3kg/10a アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a 等
ヒメビウンカ	並	△	◆ キラップはカメムシ類対策を主として使用する。 ◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底するが、水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。
セジロウンカ	やや少	△	
ツマグロヨコバイ	並	○	
ニカメイチュウ	やや少	△	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ※飼料用米栽培において農薬を使用する場合は、次の対策に留意すること。
- ①飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは糞摺りをして玄米で給餌すること。
  - ②籾米のまま、もしくは籾殻を含めて給餌する場合は、出穂以降の農薬散布は控えること。

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:やや早(足柄地区事務所根府川分室:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 8月下旬~9月上旬に防除する。
かいよう病 (中晩柑類)	やや多	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 傷口から感染するため、ミカンハモグリガの防除を行い、台風通過が予想される前には予防散布を行う。
ミカンハダニ	並	○	マイトコーネフロアブル [7日,1回] 1,000~1,500倍 等
ミカンサビダニ	—	○	
チャノキイロアザミウマ	並	△	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【ナシ】 生育:やや早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) オーシャイン水和剤 [前日,5回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	並	○	アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 スカウトフロアブル [前日,5回] シンクイムシ類:2,000倍、カメムシ類:1,500倍
カメムシ類	並	○	フェニックスフロアブル [前日,2回] シンクイムシ類:4,000倍 等 ◆ ナシヒメシンクイの第4世代の幼虫を対象とする防除適期は、8月上中旬と予想される(伊勢原、大井)。 ◆ 山際の園ではカメムシが飛来する可能性があるので注意する。発生が見られたらただちに防除する。
ハダニ類	やや多	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ブドウ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			◆防除のポイント
べと病	やや多	○	(予) Zボルドー[-,-] 500~800倍 + クレフノン[-,-] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治)トリフミン水和剤[前日,3回] 2,000~3,000倍 (予・治)トップジンM水和剤[前日,6回] 1,000~1,500倍 (予・治)ベルコート水和剤[14日,3回] 1,000~1,500倍 等 ◆ベルコートは西村早生では薬害を生じるので使用しない。
カキノヘタムシガ	—	○	サムコルフロアブル10[前日,3回] 5,000倍 ダントツ水溶剤[7日,3回] 2,000~4,000倍 等 ◆平年の防除適期は8月上旬である。本年は発生時期が早まっており、防除していない場合は直ちに防除する。
カメムシ類	並	○	アクタラ顆粒水溶剤[3日,3回] 2,000倍 等 ◆ナシのカメムシの項を参照。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			◆防除のポイント
炭疽病	並	○	(予・治)ストロビーフロアブル[10日,3回] 2,000~3,000倍 (予)ダコニール1000[10日,1回] 700~1,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	並	○	カスケード乳剤[7日,2回]4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤[7日,1回]
チャノミドリヒメ ヨコバイ	並	○	チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノホソガ:5,000~10,000倍
チャノホソガ	並	○	エスマルクDF[発生初期,7日,-] チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキ
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモン ハマキ	並	○	:1,000倍 等
カンザワハダニ	並	○	ミルベノック乳剤[7日,1回] 1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病虫害情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制トマト】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント												
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	<p><b>【育苗期:粒剤施用】</b>                      アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布]                      コナジラミ類:1~2g/株                      ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理]                      コナジラミ類:1~2g/株</p> <p><b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用または灌注】</b>                      プリロソソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株                      又は、ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注]                      原液25mlを10~20Lに希釈/400株</p> <p><b>【育苗期:散布】</b>                      コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類: 4,000倍                      ディアナSC [前日,2回]                      コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍</p> <p><b>【定植時:土壌施用】</b>                      モスピラン粒剤 [定植前日~定植当日,1回:株元散布]                      コナジラミ類:1g/株</p> <p><b>【定植後:散布】</b>                      ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍                      アニキ乳剤 [前日,3回]                      コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000~2,000倍</p>												
アザミウマ類	—	○													
			<p>等</p> <p>❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。                      ❖ 育苗期のウイルス病感染防止策を徹底するとともに、育苗施設内外の除草を徹底する。                      ❖ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットのトンネル掛けする。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍								
うどんこ病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] べと病: 600～800倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] べと病: 1,000～2,000倍 等 ◆ 育苗期の殺菌剤散布は、病害予防の効果が高い。但し、高温による薬害に注意。								
アブラムシ類	並	○	【育苗期: 株元施用】 ベストガード粒剤 [育苗期, 1回: 株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類: 1g/株								
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	—	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期, 1回: 株元散布] アブラムシ類: 1g/株、コナジラミ類: 1～2g/株 【育苗期後半～定植時: 粒剤施用または灌注】 プリロツソ粒剤 [育苗期後半～定植時, 1回: 株元散布] 2g/株 又は、ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回: 灌注] 原液25mlを10～20Lに希釈/400株								
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○	【定植時: 植穴土壌混和】 アドマイヤー1粒剤 [定植時, 1回] アブラムシ類、アザミウマ類: [植穴又は株元土壌混和] 1～2g/株 コナジラミ類: [植穴土壌混和] 2g/株 【育苗期～定植後: 散布】 ダントツ水溶剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ : 2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日, 2回] ミナミキイロアザミウマ: 1,500倍 等 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。								
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。</p>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
CCYV(退緑黄化病) BPYV(キュウリ黄化病)	コナジラミ類										
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類										

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍                      (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍                      (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍                      (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍                      (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前まで, 3回] 1,000倍                      ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。</p> <p>【育苗期:土壌灌注】</p> <p>(予) フロンサイドSC [育苗期, 1回:灌注] 1,000倍、50ml/株</p> <p>◆ 発病した苗の治療は期待できない。発病株とその隣接株を速やかに処分する。                      ◆ 薬剤防除は10～14日間隔でローテーション散布し、発病が見られたら4～7日間隔に短縮する。                      ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるため、夕方散布するとよい。</p>
うどんこ病	—	○	<p>【育苗期】</p> <p>(予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍                      (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍                      (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍                      (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000倍                      (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍</p> <p>◆ うどんこ病は育苗期からの防除が重要。特に高温期の防除を徹底する。                      ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となるが病原菌は残存している。                      ◆ 本圃に発病株を持ち込まないよう、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。                      ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるため、夕方散布するとよい。</p>
ハスモンヨトウ		○	<p>トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍                      アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍</p>

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ セイビアー、サンヨール、スコア、カリグリーン: 3日以上、アントラコール、ゲッター: 7日以上、ベルコート(水和剤): 10日以上、トルネード(フロアブル)、アファーム: 混用事例あり

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナ ス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治)ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:1,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回]
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍 等
オオタバコガ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] 5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] 1,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	スターマイトフロアブル [前日,1回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
チャノホコリダニ	やや多	○	

〔防除要否〕◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
〔使用時期〕「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネ ギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑病	—	○	(予)ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治)ロブラール水和剤[14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 (予・治)ラリー水和剤[7日,3回] さび病:2,000倍 等
さび病	—	○	◆肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。
ネギアザミウマ	並	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍
シロイチモジヨトウ	—	△	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍 等

〔防除要否〕◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
〔使用時期〕「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病虫害情報

(平成30年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【キャベツ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予) ダコニール1000 [14日, 2回] 1,000倍 等 ◆ 育苗期から発生に注意。 ◆ Zボルドー:薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。
ハイマダラノメイガ	—	○	<b>【苗地床灌注】</b> ジュリボフロアブル [は種時～育苗期後半, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1000倍 (苗地床1㎡あたり2L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 <b>【セル成型育苗トレイ又はペーパーポット灌注】</b> ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 <b>【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】</b> ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 又は、[定植時, 1回:植穴処理土壌混和] 1～2g/株 ネギアザミウマ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 <b>【育苗期～定植後:散布】</b> プリンスフロアブル [14日, 2回] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ:2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:1,000～2,000倍 等
ハスモンヨトウ	並	○	
オオタバコガ	並	○	
ネギアザミウマ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略



# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 8月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部7月25日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	20%	40%	40%

\*7月19日発表1か月予報による。

### (2) 8月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (穂いもち)	少	やや少	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) いもち病常発地点において、葉いもちの発病は過去10年平均より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か多い予報。(－)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 生育診断ほにおける生育は、草丈平年並み、分けつ数やや少なく、葉色やや薄い。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か多い予報。(＋)
	斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 予察灯における誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ヒメビウンカ	少	並	1) 予察灯における誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	セジロウンカ	少	やや少	1) 予察灯における誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	トビイロウンカ	少	並	1) 予察灯における誘殺は、見られていない。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 予察灯における誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	ニカメイチュウ (ニカメイガ)	少	やや少	1) 巡回調査では被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯とフェロモントラップにおける越冬世代の誘殺数は、平年より少なかった。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(－)
	コブノメイガ	少	並	1) 巡回調査では被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 予察灯における誘殺は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
カンキツ	黒点病 (果実)	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉及び果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	かいよう病 (果実)	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉及び果実での発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
ナシ	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	シンクイムシ類	－	並	1) フェロモントラップへの第2世代誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)と伊勢原では平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ブドウ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より多い。(+) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
カキ	うどんこ病	—	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	カキノヘタムシガ (発生時期)	—	(やや早)	1) 予察灯調査では、第1世代成虫の発生ピークが平年よりやや早く、多い。
果樹全般	カメムシ類	少	並	1) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)で平年より少ない。(—) 2) 予察灯への誘殺数は平年より、県予察ほ(根府川)では少なく(—)、県予察ほ(上吉沢)、山北ではやや少なく(—)、伊勢原では多い(+) 3) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫、成虫とも平年並。(±) 4) ヒノキ球果上の吸汁痕(口針鞘)数は平年より少ないため、離脱は遅れると予測される。(—) 5) 自然環境保全センターの調査から、ヒノキの球果量は例年よりやや多いため、新世代成虫の発生はやや多いと予測される。(+) 6) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
チャ	炭疽病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(+) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(—) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年並。(±) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 5) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北で多く(＋)、県予察ほ(寸沢嵐)で平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が見られず平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
抑制トマト	タバココナジラミ	－	並	1) 巡回調査では、露地トマトで発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
抑制キュウリ	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、ナスでの寄生は見られず発生が平年より少なく(－)、露地トマトでの発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は平年より少ない(－)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、ナスでの発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
ナス	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発病は見られず発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノホコリダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第5号・8月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	ネギアザミウマ	多	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
露地野菜 全般	ハスモンヨトウ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほでのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、平年並。(±) 2) 県予察ほでのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年よりやや少なく(－)、三浦では平年より少ない(－)。 3) 巡回調査では、ナスでの発生が平年並(±)、露地トマトでの寄生はみられず発生が平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
      - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナ シ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回